

# 国語科学習指導案

日 時：11月17日(火) 5校時  
授 業 者：五十嵐 淳  
展開学級：1年B組  
展開場所：体 育 館

## 1 単元名 聞き手を意識してポスターセッションをしよう

### 2 単元の目標

- (1) ポスターにまとめたことを聞き手が理解しやすいように話そうとしたり、発表を聞いて質問したりして進んで交流しようとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- (2) 聞き手の様子や反応を見ながら言葉を補って話したり、質問に答えたりすることができる。 【話すこと・聞くこと(1)イ】
- (3) 聞き手を引き付けるのに適切な、声の調子や間の取り方などについて考え、理解を深めることができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(ア)】

### 3 評価規準

国語への関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項
ポスターにまとめたことを聞き手が理解しやすいように話そうとしたり、発表を聞いて質問したりして進んで交流しようとしている。	聞き手の様子や反応を見ながら言葉を補って話したり、質問に答えたりしようとしている。(1)イ	聞き手を引き付けるのに適切な、声の調子や間の取り方などについて考え、理解を深めようとしている。 (1)イ(ア)

### 4 単元について

#### (1) 単元を貫く言語活動と教材

本単元では「話すこと・聞くこと」、第1学年の言語活動例ア「日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること」をもとにポスターセッションを行う。ポスターセッションは調べたことや紹介したいことなどをポスター(掲示物)にまとめ、それを活用して説明や交流を行う言語活動である。ポスターセッションは聞き手の反応を見ながら表現を言い換えたり、もう一度伝えたりと聞き手に応じたわかりやすい話し方が求められる。また、少人数での情報のやりとりになるため、聞き手も聞き返したり、質問をしたりと考えを述べやすい。

今回はポスターセッションのテーマを「私が選んだ魅力的な職業」とした。10月初旬に総合的な学習の時間の中で「求人広告から自分のなりたい職業を選択する」という学習をしたところ、生徒は非常に高い関心を示し、求人広告を熱心に読んでいた。仕事内容などをプリントにまとめて班の中で紹介し合ったが、職業を選ぶことに時間がかかってしまったために時間の余裕が無く、十分に紹介合う時間を取ることができなかった。こうした背景もあり、国語科の中でその続きができればと考えた。

発表は「クラスメイトに自分が選んだ職業の魅力を伝える」ことを目的として、個人で行う。時間は発表を2分、質疑応答の時間を1分の計3分とし、必ず1枚以上ポスターを使う、その他の小道具等を用いてもよいという条件で準備を進め、発表会を開く。発表会の後には生徒に一番魅力的だと思った職業を投票させて、最も多く票を集めた生徒を表彰する。

発表を聞いて質問する、一番魅力的だった職業を選んで投票するなど、発表を聞く側にも目的意識を持たせ、相互に交流のある活動にしていきたい。

## (2) 単元で身につけさせたい力

「話すこと・聞くこと」の学習では前期に「私の宝物」をテーマにスピーチをする活動を行った。また、朝の学活では毎日日直の生徒が「今日のニュース」や「私のマイブーム」をスピーチする活動を行っている。しかし、下を向いて話したり、原稿通りに読むことに力が入ったりと、聞き手を意識して話すということが苦手な生徒が多かった。

聞き手を意識して話す力というのは、高校受験の面接など特定の場面だけでなく、日常的な他者との関わり合いの中でもコミュニケーションを上手に取っていくのに必要な力である。そこで、本単元では聞き手を意識し、聞き手の様子や反応を見ながら言葉を補って話す力を身につけさせたい。

具体的には「視線を聞き手に向け、様子や反応を見ること」、「聞き手の様子を見て間を取ったり、言葉を言い換えたり、繰り返したりすること」、「聞き手の質問を予想し、わかりやすく答えること」の三点を生徒に意識させ、指導する。

小学校と中学校の学習指導要領の比較をすると、「話すこと・聞くこと」の指導事項イでは小学校第5学年及び第6学年で「目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。」となっているのに対し、中学校第1学年では「全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。」、第3学年では「場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。」となっている。

中学校で「相手の反応を踏まえながら話す～」、「相手の様子に応じて話す～」とあるように、中学校ではより相手を意識して話をすることが求められていると考える。このことから、本単元では相手を意識して発表ができるように指導していきたい。

## (3) (1) (2) の基盤となる言語環境や継続的な取組

「話すこと・聞くこと」の学習では、(2)で述べたように前期に一度、国語科の授業でスピーチをする活動を行った。それに加えて、朝の学活の中でも毎日日直の生徒がスピーチをする活動を継続的に行っている。

また、本学級の多くの生徒たちは、小学校でパネルディスカッション、ビブリオバトル、討論会などの様々な形態の「話すこと・聞くこと」の学習活動を経験してきた。本単元で行うポスターセッションについても小学校で既に経験済の生徒がほとんどである。

小学校で行ったポスターセッションは5、6人の生徒でグループを組み、「わびさび」をテーマに、日本の伝統文化を他学年の生徒や保護者へ紹介するというものだったそうである。本単元では小学校からの発展として、聞き手を意識することに重点置いて発表に臨ませたい。また、発表もグループではなく個人で行うことにする。

## 5 生徒の実態（指導の経緯）

本学級の生徒は落ち着いた態度で黙々と授業に取り組むことができる。しかし、自分の考えを述べたり、発表したりすることについては苦手とする生徒が多い。答えに自信があるときは比較的よく手が挙がるが、「～はどのような気持ちだったか。」といった一つの答えに決まらない類の質問には手が挙がらないことが多い。これは人前で間違えることに対して恥ずかしいという意識を持っている生徒が多いことが原因と考える。

また、事前のアンケートからは下記の結果を得ることができた。スピーチなど、人前で話をすることを苦手とする生徒が多い一方で、ポスターセッションをしたときの感想は肯定的なものが過半数を越えた。ポスターを作ることに對しては大変と感じた生徒もいたようだが、何もない状態で話をするよりも、ポスターを使った方が発表をしやすと感じる生徒が多かったようである。よって、人前で話すことが苦手という生徒が多いものの、本単元については比較的抵抗を感じずに取り組める生徒が多いのではないかと考える。

加えて、単元の目標やポスターセッションの目的を明確にする、単元全体の見通しをもたせるなどして、生徒が授業に前向きに取り組めるようにしていきたい。

事前アンケート 34人で実施

①スピーチなど、人前で話すことは好きですか？

すごく好き（0人） まあまあ好き（5人） あまり好きではない（20人） 全く好きではない（9人）

【好きな理由】

自分の意見を聞いてもらえるから。  
もともと人前で話すことが好きだから。  
笑顔で聞いてくれるとやりがいがあったから。など

【好きではない理由】

緊張して言いたいことが言えなくなるから。  
原稿を覚えて、読むことが難しいから。  
聞き手の反応が気になるから。  
人前で話すことが恥ずかしいから。など

②ポスターセッションをしたことがありますか？

はい（31人） いいえ（3人）

【ポスターセッションをした時の感想（肯定的なもの）】（16人）

ポスターを使いながら話ができるので話しやすかった。  
事前のポスターを作る準備が楽しかった。  
発表前は緊張したが、やってみると楽しく、達成感が味わえた。など

【ポスターセッションをした時の感想（否定的なもの）】（15人）

書くことが多かったり、原稿を覚えたりするのが大変だった。  
保護者や他学年の生徒の前での発表だったので緊張した。  
ただ読むだけになってしまったので、聞く側が飽きている様子だった。など

6 単元の指導計画（8時間扱い）

時	学習活動と内容	指導や支援の手立て ◇評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の目標やポスターセッションのテーマ、目的、ルール等について確認する。</li> <li>○小学校でポスターセッションを行った時に学習したことを確認する。</li> <li>○自分が選んだ職業についてインターネットを活用して資料を集め、調査メモを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手の様子や反応を見ながら言葉を補って話すことが目標ということを確認させる。</li> <li>・今回のポスターセッションは個人で行うことや発表の形式について確認させる。</li> <li>◇自分の選んだ職業について、進んで資料を集めようとしている。(関)</li> </ul>
2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集めた資料を活用してポスターを作る。</li> <li>・図表や写真、イラストを入れてレイアウトを工夫してポスターを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「シカの落ち穂拾い」で学習した図表の効果について確認させる。</li> <li>◇聞き手を引き付けられるような工夫をしようとしている。(関)</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○完成したポスターをもとに発表原稿、発表メモを作る。</li> <li>・ポスターを使うタイミングや、聞き手と交流を持ちながら話すことを考えて原稿を作る。</li> <li>・調べたこと（事実）と自分の考え（意見）を明確にして、書き分けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターを使いながら発表すること、聞き手の反応を見ながら話すことを想定して原稿を作らせる。</li> <li>◇ポスターを使うことや聞き手を意識した原稿を作ろうとしている。(関)</li> </ul>
5	<p><b>【発表会に向けて練習をする（一次）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○聞き手を引き付けられるような話し方や、予想される質問とその答えを考える。</li> <li>○考えたことを意識しながら発表の練習をして、内容を覚える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇聞き手を引き付けられるような声の調子や間の取り方を考えている。(伝国)</li> <li>◇発表会に向けて、進んで練習をしている。(関)</li> </ul>
6	<p><b>【発表会に向けて練習をする（二次）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が発表者の立場だったら「こんな聞き手は嫌だ」という例を考える。</li> <li>○「良い聞き手」になるために大切なことを考える。</li> <li>○タブレット端末の操作について学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者の立場になって考えさせる。</li> <li>◇悪い聞き手、良い聞き手について考えようとしている。(関)</li> <li>・グループ毎に実際に操作をさせて、学習させる。</li> </ul>
7 本 時	<p><b>【発表会に向けて練習をする（三次）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個人で発表練習をする。</li> <li>○4人組9グループに分かれる。</li> <li>①発表者②記録者③④聞き手、質問者</li> <li>○グループごとにタブレット端末を使って発表・撮影をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇聞き手の様子や反応に対して適切な話し方を考えている。(伝国)</li> <li>◇聞き手の様子や反応を見て、言葉を補って発表をしようとしている。(話)</li> </ul>

	○自分の発表の映像を見て自己評価をし、改善点をワークシートにまとめる。	◇自分の発表の映像を見て、意欲的に改善点を探そうとしている。(関)
8	○ポスターセッション発表会を行う。 ○タイムテーブルを見て、自分の順番や時間の確認をする。 ○屋台村形式で4箇所に分かれ、順番に発表を行う。 ○発表を全て聞き終わったら、一番魅力的だと思った職業を選び、投票する。 ○感想をワークシートにまとめ、単元を振り返る。	◇聞き手を意識して話したり、発表を聞いて質問したりして進んで交流しようとしている。(関) ◇聞き手の様子や反応を見ながら言葉を補って話そうとしている。(話)

## 7 本時の目標と展開

### (1) 本時の目標

- ①自分の発表の映像を見て、意欲的に改善点を探そうとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- ②聞き手の様子や反応を見て、わかりやすく発表をすることができる。 【話すこと・聞くこと(1)イ】
- ③聞き手の様子や反応に対して適切な話し方を考えることができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(ア)】

### (2) 展開

過程	学習内容と活動	指導や支援の手立て ◇評価
導入 5分	○前時までの学習を振り返る。 ・聞き手を意識して発表する。 ・自分が聞き手になったときは、ただ発表を聞くのではなく、積極的に質問などをする。 ○本時の学習課題の確認をする。 自分の発表の映像を見て、自己評価をして改善点を探そう。	・ワークシートを参照させながら、前時までの学習内容を確認させる。 ◇聞き手の様子や反応に対して適切な話し方を考えている。(発表・ワークシート) (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)
展開 40分	○個人で発表練習をする。 ○この後のグループ毎の活動内容、場所について確認する。 ○4人組9グループに分かれ、それぞれの活動場所へ移動する。	・学習課題の確認をした後、本時の学習の流れを説明し、1時間の見通しを持たせる。 ・この後の撮影に向けて、聞き手を意識することを確認させる。 ・グループ内での役割分担やタブレット端末の操作方法についても確認させる。 ・スムーズに移動できるように生徒を誘導する。

	<p>○グループごとに発表・撮影をする。</p> <p><b>【役割分担】</b></p> <p>①発表者②記録者③④聞き手（質問者）</p> <p>・発表が終わった生徒はワークシートに自己評価を記入する。</p> <p><b>【ワークシートの評価項目】</b></p> <p>① 視線を聞き手に向け、様子や反応を見ることができていたか。</p> <p>② 聞き手の様子を見て間を取って話す等、言葉を補って話すことができていたか。</p> <p>③ 聞き手の質問に対して、テンポよく答えることができていたか。</p> <p>○映像を見るとき viewpoint について確認する。</p> <p>○自分の発表の映像を見て、再度自己評価をする。また、改善点を考えてワークシートに記入する。</p> <p>○はじめの学習場所へ移動する。</p>	<p>・デジタイマーで2分（発表）1分（質疑）2分（次の発表の準備）と時間を区切り、グループ毎に同じタイミングで生徒に発表・撮影を進めさせる</p> <p>◇聞き手の様子や反応を見て、言葉を補って発表しようとしている。（観察・ワークシート）（話すこと・聞くこと）</p> <p>・聞き手はただ聞くのではなく、一人一回は必ず質問するようにさせる。</p> <p>・グループ間を巡視し、発表者が聞き手を見て発表できているか、聞き手が質問をできているかを確認する。特に聞き手が質問できていない時には、聞き手の中に入って発表者に質問をする。</p> <p>・ただ映像を見るのではなく、ワークシートの評価項目が達成できているかを確認するよう全体に指導する。</p> <p>◇自分の発表の映像を見て、意欲的に改善点を探そうとしている。（観察・ワークシート）（関心・意欲・態度）</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>○本時の学習を振り返り、ワークシートに感想を記入する。</p>	<p>・どんな改善点が見つかったか、映像を見る前後で自己評価に差があったか等について考えさせる。</p>